

加古川シネマクラブが誕生

第1回例会作品は「蝶の舌」!

1 例会のご案内

Information

加古川シネマクラブの活動の第一歩として、第1回例会(映画鑑賞会)を行います。今後、2箇月に1度のペースで会員を対象とした例会(映画鑑賞会)を開催いたします。この会の活動に賛同いただける方は、お誘い合わせの上、入会いただきますようご案内いたします。

名称 / 第1回例会「蝶の舌」(95分)

日時 / 2002年7月16日(火)

PM2:00 ~ PM4:20 ~ PM6:40 ~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室
(JR 東加古川駅から北へ徒歩 15 分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡してください。

入会手続きがまだの方は、受付で4箇月分の会費(2,000 円)を支払い入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

2 例会作品データ

Data of the cinema

タイトル / 蝶の舌

監督 / ホセ・ルイス・クエルダ

主演 / フェルナンド・フェルナン・ゴメス / マヌエル・ロサノ / ウシア・ブランコ / ゴンサロ・ウリアルテ /

データ / 1999 年、スペイン、カラー、1 時間 35 分、スコープサイズ、字幕

その他 / 1999 年サン・セバスチャン国際映画祭正式出品、1999 年スペイン・アカデミー <ゴヤ> 賞脚色賞

3 鑑賞者からのメッセージ

Miscellaneous impressions

『蝶の舌』 ~ 少女の世界・少年の世界

この作品と同じフランコ独裁政権確立前後のスペインを、子どもの視点から描いた映画に『ミツバチのささやき』という名作があります。つい先日、この2本を連続で観る機会があり、メインテーマとは別の面白いことに気がきました。それは、同じ時代の同じ国

を舞台にしても主人公が少女か少年かによって、まったく違って見える、ということです。架空の物語の主人公に自己投影し、現実と夢の世界の狭間を彷徨う少女、片や、現実世界の様々な人や事物との発見と出会いによって成長していく少年。どちらの作品も、時代や洋の東西を超えて変わらない、少年と少女の特性を見事に描きながら、それぞれの視点を通して当時のスペインの姿が多面的に浮かび上がってきます。一本ずつ別にも見えなかったものが、連続して観ることで見えてくるものがある。映画とは、実にいろんな楽しみ方ができるものです。(た)

4 今後の例会の予定

Schedule

第2回例会「山の郵便配達」(93分)

日時 / 2002年9月20日(金)

PM2:00 ~ PM4:20 ~ PM6:40 ~

第3回例会「こどもの時間」(80分)

日時 / 2002年11月中頃

PM2:00 ~ PM4:20 ~ PM6:40 ~

5 会員とスタッフを募集しています

Recruiting staff

この会は、会員の会費により運営する非営利団体です。私たち自らの力で加古川地域で良い映画と接する機会を新たに設け、映画を愛する人たちとの交流を深めることで、私たちの生活を豊かにし、この地域から映画文化の発展を応援していきたいと思っております。

会の活動のためには、運営や当日の会場準備を担当いただけるスタッフとともに、相当な会員数の確保が必要です。協力できることがあればスタッフにお声がけください。とくに、お知り合いに、この会の活動に賛同いただけそうな方にはお声がけください。

加古川シネマクラブ ☎675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL / cinemaclub@nifty.com

http://homepage3.nifty.com/cinemaclub